

静岡大学通信(6)

著者	道林 克禎
雑誌名	静岡地学
巻	90
ページ	65-65
発行年	2004-11-20
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00025009

静岡大学通信 (6)

昨年6月の日本古生物学会と9月の日本地質学会に続き、静岡大学を会場とする学会が開催されています。9月に日本地球化学会、10月には県防災センターにて日本火山学会が開催されました。さて、今回は、国際惑星地球年 (International Year of Planet Earth 2005-2007) についてご紹介します。

国際惑星地球年の目標は、人類と地球の永続的な将来を築くために、地球科学のもっている知見が重要な鍵を握っていることをさらに深く理解してもらうことです。人類と惑星地球の関係をもっともよく知っているのは地球科学であることが理由であり、副題を「社会のための地球科学」としています。

この計画は世界の117ヶ国が加盟し総勢25万人の地球科学者を代表する国際学術団体である国際地質科学連合 IUGS によって構想企画されたものです。ユネスコの地球科学部門の全面的な支援が約束されているほか、多くの国際学術団体からも後援が表明されています。さらに、中国・インド・ロシア・アルゼンチン・ブラジル・ヨルダン・イタリアなどの政府からも支援が約束されているそうです。

公的な国際年そのものは2006年に設定されていますが、準備や結果のまとめのためにその前後1年ずつを加えて、活動は2005～2007年となるようです。この国際年に関する科学プログラムとして現在挙げられている研究テーマは、地下水・災害・地球と健康・気候・資源・深部地球・海洋および巨大都市の8項目です。これらは社会的なインパクトの大きさ、社会への働きかけの強さ、学際性の程度、科学的なポテンシャルの高さなどを考慮して選定されました。

この計画が最初に企画されたのは2001年のことで、IUGS とユネスコから初動資金が提供されて始められ、数年の準備計画期間を経て全体像がはっきりしてきたものです。現在はウェブサイト www.esfs.org を開設して直接計画の内容や進展状況に接することができるようになっています。ポスターも作られつつあり、近い将来見かけるようになるかもしれません。

道林克禎 (静岡大学理学部)